

## 効果的かつ有効性の高い集団精神療法の施行と普及 および効果検証のための研究

研究代表者：藤澤 大介（慶應義塾大学医学部）

研究趣旨：集団精神療法は国内の実証研究が少なく、国際的エビデンスと実践の格差が大きく、介入プログラム均質化されておらず、その背景に均質化された研修機会が乏しいことが指摘されている。本研究では、1) エビデンスのある集団精神療法の汎用性の高いマニュアルと研修資材の開発、2) 集団認知行動療法の研修体制の確立と研修効果の測定、3) 集団精神療法の実証研究、の3つを主眼に研究を進めた。その結果、1) うつ病の集団認知行動療法に関する実践者マニュアル、および、その研修資材（認知行動療法に限定せず、集団精神療法一般に汎用性が高いフォーマット）、マインドフルネス療法に関する研修資材、統合失調症のリカバリー指向認知療法（CT-R）に関する研修資材を作成した。2) うつ病の集団認知行動療法に関する、ビデオ教材を用いた研修プログラムとスーパービジョン・コンサルテーションの提供体制を構築し、研修効果を予備的に検証した。3) うつ病の集団認知行動療法、不安症のマインドフルネス療法、不安症および併存疾患に対する認知行動療法の統一プロトコル（Unified protocol: UP）、強迫症に対する集団認知行動療法、双極症に対する集団認知行動療法、統合失調症に対するリカバリー指向認知療法について、それぞれ実証研究を進めた。集団精神療法の共通治療因子である、集団の凝集性に関する尺度開発を進めた。

### 研究分担者

菊地俊暁（慶應義塾大学）

佐渡充洋（慶應義塾大学）

岡田佳詠（国際医療福祉大学）

久我弘典（国立精神・神経医療研究センター）

伊藤正哉（国立精神・神経医療研究センター）

耕野敏樹（岡山大学）

佐藤泰憲（慶應義塾大学）

### A. 研究目的

集団精神療法は国際的なエビデンスの裏付けがあるが、令和3～5年度厚生労働科学研究「効果的な集団精神療法の施行と普

及および体制構築に資する研究」（研究代表者：藤澤大介）（21GC1015 研究）では、国内の実証研究が少なく、エビデンスと実践の格差が大きく、介入プログラム均

質化されておらず、その一因に均質化された研修機会が乏しいことが指摘された。

そこで本研究は、

**項目1：エビデンスのある集団精神療法の汎用性の高いマニュアルと研修資料の開発**

- 1) うつ病の集団認知行動療法
- 2) マインドフルネス療法
- 3) 統合失調症のリカバリー指向認知療法

**項目2：集団認知行動療法の研修体制の確立と研修効果の測定**

- 1) 全国で研修を行える体制の構築
- 2) スーパービジョン・コンサルテーションの提供体制の構築
- 3) 研修実施と効果測定

**項目3：集団精神療法の実証研究**

(介入研究や介入研究の二次解析)

- 1) 双極症に対する集団認知行動療法
- 2) 統合失調症に対するリカバリー指向認知療法 (Recovery-Oriented Cognitive Therapy: CT-R)
- 3) うつ病の集団認知行動療法
- 4) マインドフルネス療法
- 5) 強迫症に対する集団認知行動療法
- 6) 不安症および併存疾患に対する認知行動療法の統一プロトコル (Unified protocol: UP)

を行うことを目的とした。

**B. 研究方法**

**項目1：エビデンスのある集団精神療法の汎用性の高いマニュアルと研修資料の開発**

- 1) うつ病の集団認知行動療法  
21GC1015 研究の成果物である「うつ病の

集団認知行動療法」の介入プログラムに関する実践者マニュアルを作成した(担当:菊地)。

また、同プログラムの内容を反映した研修プログラムを作成した。「うつ病の集団認知行動療法」の社会実装に向けて、研修を全国各地で実施することを想定し、少ないマンパワーで、かつ、講師の力量に大きく左右されず均質の研修を実施できるよう、ビデオ教材を作成した。(担当:藤澤)

**2) マインドフルネス療法**

マインドフルネス療法の技術習得の中で、特に、teachingに焦点をあてた「マインドフルネス療法基礎ワークショップ (Teaching Foundation)」を開発し、そのfeasibility 検証のための研究計画を作成した。(担当:佐渡)

**3) 統合失調症のリカバリー指向認知療法**

リカバリー指向認知療法(または、リカバリーを目指す認知療法:CT-R)について、訪問看護ステーションの職員を対象とする研修資料を作成した。(担当:耕野)

**項目2：集団認知行動療法の研修体制の確立と研修効果の測定**(担当:藤澤・久我)

**1) 全国で研修を行える体制の構築**

精神保健福祉センター・センター長会を通じて、全国の精神保健福祉センターに周知し、集団認知行動療法の研修会を開催した。全国での普及に向けた課題とニーズについてフォーカス・グループを行った。

**2) スーパービジョン・コンサルテーションの提供体制の構築**

集団認知行動療法の研修受講者を対象に、ウェブシステムを用いたスーパービジョン・コンサルテーションを提供する枠組みを作成した。

### 3) 研修実施と効果測定

集団認知行動療法の研修受講者を対象に研修効果を測定した。認知行動療法の基礎的知識(認知療法意識尺度 Cognitive Therapy Awareness Scale: CTAS)、集団認知行動療法の実践や管理運営に関する自信などを評価した。

## 項目 3 : 集団精神療法の実証研究

### 1) 双極症に対する集団認知行動療法

NTT 東日本関東病院において、双極症に対する短期集団認知行動療法プログラム(1回60分計4回)の前後比較試験を実施した。(担当:岡田)

### 2) 統合失調症に対するリカバリー指向認知療法 (CT-R)

CT-R のワークショップを受講した、訪問看護ステーション 2 施設の職員に対して週 1 回のコンサルテーションを提供した。(担当:耕野)

### 3) うつ病の集団認知行動療法

慶應義塾大学で実施した、外来通院中の成人うつ病患者 34 名を対象とした、集団認知行動療法 (CBGT) プログラムの非盲検化ランダム化比較検討試験(RCT) (21GC1015 研究) の追加解析を行い、論文化を進めている。(担当:菊地、佐藤)

### 4) マインドフルネス療法

不安症に対するマインドフルネス療法の長期効果の RCT (2019-2021 年度 AMED 研究課題:瞑想やヨガを用いたマインドフルネス介入の効果予測因子の特定および効果検証に関わる研究) の二次解析を行うべく、解析計画の立案(媒介分析)とデータセットの整備を行った。(担当:佐渡)

### 5) 強迫症に対する集団認知行動療法

国立精神神経医療研究センターで実施した前向き観察研究の解析計画を策定し、データ・クリーニングを行った。(担当:久我、伊藤)

### 6) 不安症および併存疾患に対する認知行動療法の統一プロトコル (UP)

セラピストガイドと患者用ワークブック第 2 版の翻訳書を出版し、その内容に基づいて、集団療法の実施マニュアルと資料を整備した。

集団精神療法の効果を予測する集団凝集性の評価尺度 Group Cohesiveness Scale の日本語版の作成を進めた。

RCT の予備試験としての都内 2 か所の施設における前後比較試験の研究計画を策定した。(担当:伊藤)

(倫理面への配慮)

すべての研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施した。倫理審査の対象となる研究については、それぞれ、関連する施設の倫理委員会(慶應義塾大学医学部、国立精神・神経医療研究センター、国際医療福祉大学、NTT東日本関東病院)の承認を得

て実施した。

## C. 研究結果

### 項目 1：エビデンスのある集団精神療法の汎用性の高いマニュアルと研修資材の開発

#### 1) うつ病の集団認知行動療法

“認知行動療法の共通基盤マニュアル認知療法・認知行動療法マニュアル作成および見直し・改訂時のチェックリスト (AMED 研究成果 2023 年)” に準拠した、全 3 章 (マニュアルの概要、各モジュールの進め方、マニュアルの作成に関する情報) から構成される集団認知行動療法実践者マニュアルが開発された。(菊地)

また、ビデオ教材を活用し、少ないマンパワーで実施可能で、講師の力量に大きく左右されずに均質の研修を実施できる研修プログラムが作成された(担当:藤澤・久我)。

#### 2) マインドフルネス療法 (担当:佐渡)

「マインドフルネス療法基礎ワークショップ (Teaching Foundation)」を開発し、feasibility 検証のための研究計画が作成され、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認が得られた。ワークショップは 2025 年 6 月に実施予定であり、研修資材の作成が進められている。

#### 3) 統合失調症のリカバリー指向認知療法

リカバリー指向認知療法 CT-R について、訪問看護ステーションの職員を対象とする研修資材が作成された。(担当:耕野)

### 項目 2：集団認知行動療法の研修体制の確立と研修効果の測定 (担当:藤澤・久我)

#### 1) 全国で研修を行える体制の構築

ビデオ教材を含む研修資材が整備され、限られた人員で研修が実施できる体制が整備されつつある。

全国の精神保健福祉センターセンター長会を通じた、各都道府県への周知の流れが構築された。

集団精神療法の普及に向けた課題とニーズがリストされた。

#### 2) スーパービジョン・コンサルテーションの提供体制の構築

集団認知行動療法の研修受講者を対象に、ウェブシステムを用いたスーパービジョン・コンサルテーションを提供する枠組みが作成された。

#### 3) 研修実施と効果測定

集団認知行動療法の研修受講者 18 名において、研修の前後で、認知行動療法の知識、および、集団認知行動療法の実施に関する自信の向上が見られた。

### 項目 3：集団精神療法の実証研究

#### 1) 双極症に対する集団認知行動療法

報告書作成時点までに 12 名の寛解期双極症患者が研究に参加した。研究組入れから 2 ヶ月半～1 年 3 ヶ月の観察期間において、プログラム参加後の躁・うつ状態の波は軽度で、安定しており、3 名は復職につながった。ほぼ全員に前ぶれ症状と対処法への気づきがあり、継続的に取り組む者もいた。終了時の満足度を表す CSQ-8J は平均 29.3 (SD2.5) と高かった。(担当:岡田)

## 2) 統合失調症に対するリカバリー指向認知療法

CT-R ワークショップに参加した 20 名において、参加前後で自己効力感 (GSES) が有意に向上した。6 ヶ月のコンサルテーション終了時点では有意差は確認されなかった。

コンサルテーション終了後の時点で、プログラムの適切性、妥当性、実施可能性 (AIM、IAM、FIM) の評価項目が有意に向上した。  
(担当：耕野)

## 3) うつ病の集団認知行動療法

うつ病の集団認知行動療法の RCT では、主要評価項目である抑うつ症状において有意差が認められた。論文化が進捗している。

RCT の参加者のうち、介入群に割り付けられた 17 名における、治療奏功および治療反応の関連因子の検討が行われた。(担当：菊地、佐藤)

## 4) マインドフルネス療法

不安症に対するマインドフルネス療法の長期効果の RCT (AMED 2019-2021 年度 瞑想やヨガを用いたマインドフルネス介入の効果予測因子の特定および効果検証に関する研究) の二次解析の解析計画の立案と、データセットの整備が行われた。(担当：佐渡)

## 5) 強迫症に対する集団認知行動療法

国立精神・神経医療研究センター病院で実施された強迫症に対する集団認知行動療法 (曝露反応妨害法) の前向き観察研究について、28 名のデータのクリーニングが行われ、解析が着手された。

プログラムは、事前個別セッション 1 回、集団セッション 8 回、事後個別セッション

1 回で構成され、主要評価項目は自己記入式 Yale-Brown Obsessive Compulsive Scale (Y-BOCS) の変化量であった。(担当：久我、伊藤)

## 6) 不安症および併存疾患に対する認知行動療法の統一プロトコル (UP)

不安症および併存疾患に対する認知行動療法の統一プロトコル (100 分×12 回) の前後比較試験の研究計画が立案され、倫理委員会申請が行われた。都内 2 施設をサイトとし、精神科主診断が DSM-5 における不安症 (パニック症、広場恐怖症、社交不安症、全般性不安症)、うつ病、強迫症のいずれかに該当する者を対象として、目標症例数は 18 例とされた。主要評価項目はうつ病と不安症の症状 (Clinical Global Impression-Severity of Illness (CGI-S) 得点) の変化とした。

集団精神療法の効果を予測する集団凝集性の評価尺度である Group Cohesiveness Scale の翻訳がなされ、妥当性の検証に進む予定である。(担当：伊藤)

## D. 考察

### 項目 1：エビデンスのある集団精神療法の汎用性の高いマニュアルと研修資料の開発

うつ病の集団認知行動療法に関する実践者マニュアル、および、研修資料、マインドフルネス療法に関する研修資料、統合失調症のリカバリー指向認知療法 (CT-R) に関する研修資料が作成された。

### 項目 2：集団認知行動療法の研修体制の確立と研修効果の測定

うつ病の集団認知行動療法に関する、ビデオ教材を用いた研修プログラムとスーパービジョン・コンサルテーションの提供体制が構築された。研修効果が予備的に検証された。

### 項目 3 : 集団精神療法の実証研究

うつ病の集団認知行動療法、不安症のマインドフルネス療法、不安症および併存疾患に対する認知行動療法の統一プロトコル、強迫症に対する集団認知行動療法、双極症に対する集団認知行動療法、統合失調症に対するリカバリー指向認知療法について、それぞれ実証研究が進行中である。

#### E. 結論

エビデンスのある集団精神療法の汎用性の高いマニュアルと研修資料の開発、集団認知行動療法の研修体制の確立と研修効果の測定、集団精神療法の実証研究の各課題項目について、おおむね計画通り進捗している。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

###### 【国外】

1. Uneno Y, **Fujisawa D**, et al. (2024). "Self-compassion-based online group psychotherapy for bereavement-related grief: The COMPACT feasibility trial." *Gen Hosp Psychiatry* 2024;90:116-123
2. **Sado M**, **Fujisawa D**, et al. Cost-

effectiveness analysis of mindfulness-based cognitive therapy in patients with anxiety disorders in secondary mental health care settings alongside a randomized controlled trial. *Frontiers in Psychiatry*;15 :1391786, 2024

3. Fukumori M, **Kikuchi T\***, Zhou Y, Hattori S, Kudo T. Network meta-analysis of the effectiveness of psychotherapies with or without medication for treating adult depression. *Acta Neuropsychiatr.* 2024 Nov 20:1-15.
4. **Kikuchi T\***, Iga J, Oosawa M, Hoshino T, Moriguchi Y, Izutsu M. A web-based survey on the occurrence of emotional blunting in patients with major depressive disorder in Japan: Patient perceptions and attitudes. *Neuropsychopharmacology Reports.* 2024 Jun;44(2):321-332.
5. Kato M, **Kikuchi T**, Watanabe K, Sumiyoshi T, Moriguchi Y, Oudin Åström D, Christensen MC. Goal Attainment Scaling for Depression: Validation of the Japanese GAS-D Tool in Patients with Major Depressive Disorder. *Neuropsychiatr Dis Treat.* 2024 Jan 16;20:49-60. doi: 10.2147/NDT.S441382. eCollection 2024.
6. Machiko Kajiwara, **Noriko Kato**, Motohiro Nishiuchi, Hiroko Fujisato, Kyousuke Kaneko, **Hironori Kuga**,

**Masaya Ito.** Application of the Unified Protocol for Transdiagnostic Treatment of Emotional Disorders in a Group Format for Adults: A Scoping Review Protocol. Behavioral Sciences 15(3) 389-389. 2025年3月

#### 【国内】

1. **田島美幸, 藤澤大介, 田村法子, 近藤裕美子, 原祐子, 大嶋伸雄, 岡島美朗, 岡田佳詠, 菊地俊暁, 耕野敏樹, 佐藤泰憲, 高橋章郎, 中川敦夫, 中島美鈴, 吉永尚紀, 大野裕.** 精神科医療機関における集団精神療法の実施状況に関する全国調査. 精神療法 50(4) 563-571, 2024
2. 片山奈理子, **藤澤大介.** 認知行動療法におけるリカバリー. 精神療法 50(5), 677-681, 2024
3. **菊地俊暁, 藤澤大介, 伊藤正哉,** 石川亮太郎, 樽谷精一郎. 各疾患における認知行動療法の共通点と相違点: Generic ModelとSpecific Model. 認知療法研究 17(2), 135-146, 2024.
4. **藤澤大介, 岡田佳詠, 田島美幸, 熊谷直樹, 向山晴子, 耕野敏樹, 松本和紀.** 集団認知行動療法の普及に向けて: 全国の状況と取り組み. 認知療法研究 17(2), 125-134, 2024.
5. 南 房香, **菊地俊暁.** PMS・PMDDに対する認知行動療法: 産科と婦人科, 2024-08, Vol.91 (8), p.909-912.
6. **菊地俊暁.** 疾患ごとに見る認知行動療法モデルの共通点と違い: 認知療法研究, 2024-08, Vol.17 (2), p.137-140.
7. **菊地俊暁.** Measurement Based Care (MBC) という考え方. 精神科. Resident, 2024-04, Vol.5 (1), p.26-27
8. 新田真由美, 根本友見, **岡田佳詠.** 職場復帰後に再休職に至ったうつ病をもつ人の認知・行動の特徴, 日本看護科学会誌, 44, 702-711, 2024.
9. **岡田佳詠,** 白石裕子, 齋藤嘉宏, 田上博喜, 上等里江. 簡易型の認知行動療法の看護場面での実践, 認知療法研究, 17 (2) , 174-182、2024.
10. **岡田佳詠.** 共に考え, 創り, 積み上げる. 日本精神保健看護学会誌, 33 (2) , 89-94, 2024.
11. **伊藤正哉,** 金子響介, 杉田創, 矢部魁一, 梶原真智子, 豊田彩花, 藤里紘子, **加藤典子.** 各疾患における認知行動療法の共通点と相違点 -Generic ModelとSpecific Model-診断横断アプローチによる認知行動療法 感情に注目した統一プロトコルを中心に 認知療法研究 17(2) 140-142. 2024年8月
12. **耕野敏樹.** リカバリーを目指す認知療法を通して体験する ポジティブ精神医学. 最新精神医学. 29(6). 235-240.2024.
13. **耕野敏樹.** 認知行動療法と自殺対策. 精神療法. 52(2). 31-37. 2025.

#### 2. 学会発表

#### 【国外】

1. **Fujisawa D,** Park S, Sato Y, Takita Y, **Tamura N,** Morishita J, Sado M, Ninomiya A, Kosugi T, Ishii T. Effectiveness of a group Mindfulness and Compassion-Based Stress and

Burnout Reduction Program for Healthcare Professionals (MaHALO program): a randomized controlled trial. World Congress of Psycho-Oncology, 2024.9.24-27, Maastricht, Netherland

2. **Kikuchi T.** Co-Sponsored Luncheon Seminar: What is the optimal way to manage MDD in working individuals? CINP2024/ JSNP-JSCNP2024 Joint Meeting, 2024年5月25日、東京

#### 【国内】

1. 采野優, 小寺康博, 菊池亨子, 山田美紗子, 杉谷麻里, 寺戸沙織, 前原寛子, 坂本結里, 管生聖子, 谷晴加, 清水亜紀子, 久保陽子, **藤澤大介**, 武藤学. 死別を経験した人を対象としたセルフコンパッションに焦点を当てた WEB 開催心理療法に関する実施可能性試験: the COMPACT feasibility trial. 第 29 回日本緩和医療学会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会合同学術大会 (神戸, 2024年6月14-15日) 最優秀演題
2. **藤澤大介**. がん領域における不眠ケア・認知行動療法. 第 120 回日本精神神経学会学術総会 (札幌市, 2024年6月20日-6月22日.)
3. **藤澤大介**. マインドフルネス心理療法の概略と展開. 第 120 回日本精神神経学会学術総会 (札幌市, 2024年6月20日-6月22日)
4. **藤澤大介**. マインドフルネスとコンパッションに基づくストレス・燃えつき低減プログラム: MaHALO program. 第 120 回日本精神神経学会学術総会 (札幌市, 2024年6月20日-6月22日)
5. **藤澤大介**. 個人・集団認知行動療法の均てん化に向けた実態調査・基盤マニュアル・研修体制の整備. 第 120 回日本精神神経学会学術総会 (札幌市, 2024年6月20日-6月22日)
6. **藤澤大介**. ベックの認知療法における認知と行動 (シンポジウム CBT における「認知」と「行動」). 第 16 回日本不安症学会/第 24 回日本認知療法・認知行動療法学会 (九州大学, 2024.7.19-20.)
7. **藤澤大介**. 世界認知行動療法連合学会 (WCCBT) トレーニングガイドライン (シンポジウム 認知行動療法の医学教育パスウェイ: 行動科学から専門医育成まで). 第 16 回日本不安症学会/第 24 回日本認知療法・認知行動療法学会 (九州大学, 2024.7.19-20.)
8. 根本友見, **岡田佳詠**, **藤澤大介**, 天野敏江, 中島美鈴, 高橋章郎, 岡島美朗, **田村法子**, 大嶋伸雄, 吉永尚紀, 丹野義彦. 集団認知行動療法実践者養成プログラムの効果検討-6 ヶ月後のデータ分析から-. 第 16 回日本不安症学会/第 24 回日本認知療法・認知行動療法学会 (九州大学, 2024.7.19-20)
9. **藤澤大介**. 木を見て森も見る: 集団精神療法における個人・集団・チームの見立て. 日本マインドフルネス学会第 11 回大会 (慶應義塾大学三田キャンパス 2024.10.27)
10. **藤澤大介**. 服薬指導に活かす認知行動療法. 第 18 回日本薬局学会学術総会シ

- ンポジウム「患者の考え方を理解し、寄り添った対応ができる薬剤師を目指すために」。横浜市, 2024.11.3
11. **菊地俊暁**. ランチョンセミナー うつ病の治療であと一步の時に何を考えるのか～ポジティブな感覚を取り戻すには～、第24回日本外来精神医療学会、ステーションコンファレンス池袋、東京、2024.10.13
  12. **菊地俊暁**. 教育講演 AIと認知行動療法. 第16回日本不安症学会／第24回日本認知療法・認知行動療法学会 (九州大学,2024.7.19.)
  13. **菊地俊暁**. シンポジウム 日常臨床にリカバリーの発想を活かす-これまでと何が違うのか. 第16回日本不安症学会／第24回日本認知療法・認知行動療法学会 (九州大学,2024.7.19.)
  14. **菊地俊暁**. シンポジウム 認知行動療法の医学教育パスウェイ：行動科学から専門医育成まで. 第16回日本不安症学会／第24回日本認知療法・認知行動療法学会 (九州大学,2024.7.19.)
  15. **菊地俊暁**. シンポジウム 薬物療法で行き詰ったときの次の一手。日常診療で出来ることから. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪国際交流センター. 大阪, 2024.7.13.
  16. **菊地俊暁**. シンポジウム うつ病診療ガイドライン 一歩改定の経緯とドラフト①. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪国際交流センター, 大阪. 2024.7.13.
  17. **菊地俊暁**. 教育講演 うつ病のプレジジョンメディシン. 第21回日本うつ病学会総会. 大阪国際交流センター, 大阪. 2024.7.12.
  18. **菊地俊暁**. シンポジウム Difficult to Treat Depression (DTD) を考える 第21回日本うつ病学会総会. 大阪国際交流センター, 大阪. 2024.7.12.
  19. **菊地俊暁**. シンポジウム 精神医学における Measurement based care 概論：有益性と乗り越えるべき課題について. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌市産業振興センター, 札幌. 2024.6.22
  20. **菊地俊暁**. シンポジウム 認知行動療法の現状における課題と対策. 第120回日本精神神経学会学術総会. 札幌市産業振興センター, 札幌. 2024.6.21
  21. **菊地俊暁**. うつ病診療における Measurement based care の考え方：個別化されたリカバリーへのアプローチを精神療法から考える. CINP2024/JSNP-JSCNP2024 Joint Meeting, 東京国際フォーラム, 東京. 2024.5.25
  22. **菊地俊暁**. うつ病治療のニューノーマルを目指して：治療の功罪と期待. 第54回日本神経精神薬理学会・第34回日本臨床精神神経薬理学会合同年会, 東京国際フォーラム, 東京. 2024.5.25
  23. **菊地俊暁**. 医師と患者はどのようにすれば They ではなく We になれるのか: Shared Decision Making のあり方を考える. 第7回日本うつ病リワーク協会年次大会、ウインクあいち(愛知県産業労働センター), 名古屋. 2024.4.13
  24. **菊地俊暁**. 教育講演 リワークと認知行動療法～リワークに求められる認知

- 行動療法のエッセンスとは～第7回日本うつ病リワーク協会年次大会、ウイंकあいち(愛知県産業労働センター), 名古屋. 2024.4.12
25. 藤澤大介, 岡田佳詠, 中島美鈴, 田島美幸, 田村法子, 高橋章朗, 集団認知行動療法の基本ワークショップ. 第16回日本不安症学会/第24回日本認知療法・認知行動療法学会(九州大学, 2024.7.21)
26. 岡田佳詠, 大路友惇, 中村聡美, 森内加奈恵, 天野敏江, 根本友見, 双極性障害患者への再発予防のための短期集団認知行動療法プログラム 初回クールの実践を通して. 第21回日本うつ病学会総会. 2024年7月12日-13日. 大阪市.
27. 岡田佳詠, 看護実践の未来を描くコンパス—CBTがもたらすさらなる発展 双極症者への短期集団認知行動療法プログラムの開発. 第16回日本不安症学会/第24回日本認知療法・認知行動療法学会(九州大学, 2024.7.19-20)
28. 天野敏江, 岡田佳詠, 根本友見. 重い精神障害をもつ人のリカバリーを支援する精神科訪問看護教育プログラム(改訂版)の効果検証 非盲検ランダム化比較試験. 日本精神保健看護学会第34回学術集会・総会. 2024年6月1日-2日. 成田市.
29. 根本友見, 岡田佳詠, 天野敏江, 吉永尚紀, 1 看護系大学における認知行動療法の習得・活用状況: アンケート及びインタビュー調査. 第44回日本看護科学学会学術集会. 2024年12月7日-8日, 熊本市.
30. 耕野敏樹. リカバリー志向とSSTによる近年の認知行動療法の発展. SST普及協会30周年事業 プレ大会. 2024年11月24日. 帝京平成大学池袋キャンパス
31. 耕野敏樹. 統合失調症の多様な状態像に応じるための認知行動療法のアプローチとは. 第16回日本不安症学会/第24回日本認知療法・認知行動療法学会(九州大学, 2024.7.20)
32. 耕野敏樹. リカバリーを目指す認知療法によるリカバリー志向の精神科治療. 第120回日本精神神経学会. 2024年6月21日. 札幌コンベンションセンター.
33. 耕野敏樹. 認知行動療法のリカバリーを目指した発展による適用可能性の広がり. 第120回日本精神神経学会. 2024年6月21日. 札幌コンベンションセンター.

## H. 知的所有権の取得状況(予定も含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし